

俺達の職場は、俺達で守る

地本青行隊、 2月決戦を宣言！

地本青行隊は、一九九結成集会をひきつぎ、一月二七日、津田沼電区管内に全支部青行隊員250名、親組合・三里塚農民・支援共闘に結集する労組員250名を結集して、**地本青行隊総決起集会**を開催した。

集会は、本部・城石組織部長の東スロツク組織部長会議（²⁴/₂₅・於盛岡）での「千葉地本破壊宣言」「千葉地本再建のために団結がんばろう」を公然と行う所にまできた理不尽な千葉地本破壊攻撃の新たな段階を粉碎する怒りの決起の場として実現した。

青行隊は先頭に起つ

全体集會前に津田沼に到着した各支部の青行隊は、それぞれ独自の決起集会を行った。朝から組合歌・インター・演説がラウドスピーカーから流され、数十本の深紅の行動隊旗が林立し、元気なモト訓練、かけ声のとびかう津田沼電区は、さながら決戦前夜の怒りのるつぼと化した。

集会は、南総・北総・津田沼・総武スロツクの順で青行隊が整列し、両側を親組合・支援が包み、戦術的雰囲気の中、石井地青常任（津田沼選出）の断乎たる決意をたぎらせた開会宣言で開始された。

地本青行隊を代表して**吉野青年部長**は、「青行隊を最先頭にしたい一月総決起によって、千葉地本破壊攻撃を粉碎してきた。各支部で青行隊が先頭にたつならば、必ず勝利できる。本日、本日の集會を、勤労内革マル分子を排し真の組合民主主義確立、そしてなによりも千葉地本組合員・家族の生活と権利を守るための、決起の場、とせよ」と提起し全体が自らの課題として受けとめた。

つづいて、地本闘争委員会を代表して挨拶にたった**西森副委員長**は、最近の勤労内一部反動分子の特徴的攻撃

第3回地本スキー大会盛況に開催さる

1月24・25・26日、恒例の地本スキー大会ならびに講習会が、長野県菅平スキー場で開催されました。今回は8支部より40名が参加し、名々の力量に応じた技を競い、たのしみながら大盛況のうちに開催され、最終日の26日、各クラス別スキー大会が決められました。昨年に比べ参加支部・人員の増加、技術の向上が目立ち、結果は次の通り。

(A) 支部対抗スキー

優勝＝千葉電支部
準々＝勝浦
※3位＝津田沼
※4位＝新小岩
※5位＝銚子
※6位＝成田

(B) 回転1部

優勝＝浪川猛
(津田沼)
準々＝吉野洋
(勝浦)
※3位＝高橋望明
(4転)

(C) 回転2部

優勝＝早船静四郎
(銚子)
準々＝鈴木昭司
(津田沼)
※3位＝小高治夫
(成田)

※なお、費用は、1泊2食付3800円で決めました。来年も、更に多数の参加を待ちます。

国鉄労働者として生きる ために闘う……！

田中地青書記長の基調報告をうけて決意表明にたった各スロツク青行隊長と宮内地青副部長は、怒りの火の玉と化して発言した。

「先輩達の血と汗の跡で築いた職場を奴等の土足で蹂躪させてたまるか」「俺は何んでも言える千葉地本が好きだ。だからこの千葉地本を守る闘いの先頭にたつ……と。」

すべての組合員の皆さん！

この言葉の中にわれわれの闘いの正義性と核心性がある。いざ、勝利へむけ二月決戦に突入せよ。

日刊 動労千葉

79.1.30
No. 20

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八〇九（公衆）四七三二七二〇七